

『 HPV 検 査 』

子宮頸がんのセルフチェック

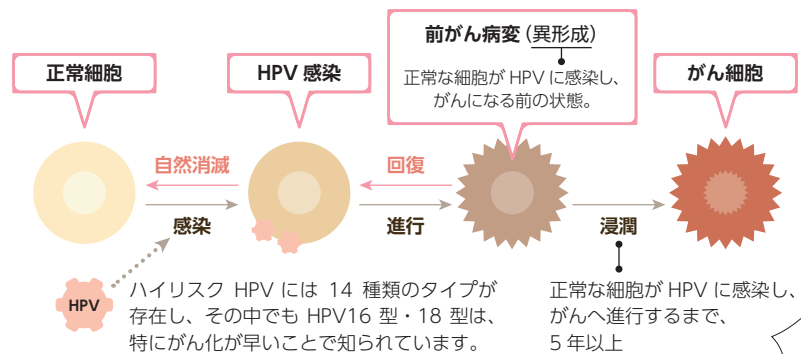
— 子宮頸がんの主な原因とされるハイリスクHPVの感染を調べます —

子宮頸がんの主な原因は ハイリスク・ヒトパピローマ・ウイルス (HPV) の持続感染です

HPVは、性交渉により女性の約80%が生涯に一度は感染するありふれたウイルスで、感染したとしても90%の人では自己の免疫によって排除されます。ところが残りの10%の人ではウイルスが排除できずに感染が持続します。感染が持続すると、5年以上という長い年月をかけて子宮頸がんへと進行する場合があります。

HPV 16型・18型の識別

HPV16型・18型はハイリスクHPVの中でも特にがんへの進展リスクが高く、日本では子宮頸がん症例の約60%で感染が確認されています。*



* Miura S et al. Do we need a different strategy for HPV screening and vaccination in East Asia? Int J Cancer 2006 Dec 1;119(11):2713-2715

子宮頸がんとハイリスク HPV 検査、その関係は？

01 子宮頸がんと検診について

子宮頸がんが発生するのは、子宮頸部の入り口である外子宮口のあたりです。定期的に検診を受ければ、がんになる前の段階で見つけることが可能です。子宮頸がん検診では、一般的に医師採取による細胞診が行われますが、前がん病変の発見率が高まることから、細胞診と HPV 検査を併用する方法も普及しています。

02 ハイリスク HPV 検査とは

子宮頸がんの主な原因とされるハイリスク HPV の感染を調べます。ハイリスク HPV には 14 種類のタイプが存在しますが、今回の検査では「16 型」「18 型」「その他ハイリスクグループ」への感染を調べます。

03 ハイリスク HPV 検査の結果

ハイリスク HPV 感染イコールがんではありませんが、子宮頸がんを発症するリスクがあります。医療機関で医師による子宮頸がん検診を受診してください。感染が認められなかった場合は、子宮頸がんのリスクは低いと考えられますが、前がん病変やがんを完全に否定できるものではありませんので、これを機会に医療機関で行われる検診の受診をおすすめします。